



四葛西小だより

令和7年11月29日

江戸川区立

第四葛西小学校

12月号

～考えよう 相手の気持ち 育てよう 思いやりの心～

校長 伊藤 秀一

11月は展覧会や6年生の日光移動教室など大きな行事が行われました。子供たちは真剣に作品作りや宿泊学習の準備に取り組んできました。子供たち一人一人が努力を重ねると同時に、みんなで協力して成し遂げると、より充実した気持ちになれることを行事の取組をとおして実感できたことと思います。保護者の皆様には、子供たちの取組に励ましの声をかけていただいたことに感謝を申し上げます。また、読書週間の取組を読書紹介カードにまとめ廊下に掲示をしています。クラスや学年を超えて読み合い、本への興味が高まるようにしていきたいと思います。個人面談でご来校の際にご覧ください。

さて、12月4日から10日は「人権週間」です。国際連合が世界人権宣言を採択した12月10日を「人権デー」と定めたことにより、日本では、その前の一週間を「人権週間」として位置付け、「思いやりの心」や「かけがえのない命」などについて、考えを深めていく取組を様々実施しています。

第四葛西小学校では代表委員会の子供たちの提案で友達同士の関わりをよりよくするために「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」について考えを深める「ありがとうの木」の取組を行っています。「ふわふわ言葉」とは、相手がどう思うか考えて気持ちが楽になる言葉、「ちくちく言葉」とは自分の感情を一方向的に押し付けてしまい相手を傷つけてしまう言葉です。言葉は使い方によっては人を励ますことも傷つけてしまうこともあります。この機会を生かして、「正しい言葉の使い手」として、相手の気持ちを考えた行動や思いやりの心が一層育まれるよう指導を進めていきたいと考えています。

また、ご家庭での子供たちの人間関係にかかわる成長度はいかがだったでしょうか。思いやりをもって人と接するようになった、優しい言葉遣いをするように気をつけていたなど、成長が見られたでしょうか。「思いやり」は、人と（とくに友達と）接する経験をたくさん積んでいくうちに、自分と違う考え方の人がいることに気付き、互いによりよく関わろうとする行為を通して少しずつ育まれていくものと考えます。しかし、自分の思い通りを許してくれる大人ばかりいると、そのような経験をしないまま成長し、「思いやりの心」が育たないまま、大きくなってしまふこともあります。

私たち大人も、今年一年、自分自身が「自己中心的」でなかったかを反省し、来年は(も)「思いやりの態度」で人と接し、子供に良いお手本を示してあげたいものです。



読書紹介



ありがとうの木

12月の生活指導目標

「身の回りの整理整頓をしましょう」

児童の発達段階に応じて、整理整頓できるよう指導を行っているところです。整理整頓することで、「忘れものや紛失物が減る」「使用する用具がスムーズに出せる」「気持ちよくみんなが生活できる」といった利点があることを実感できると、今後も続けていこうという意欲につながります。

配布された手紙等は連絡袋に入れる、使用した物は元の場所に返すといった、小さいことからの積み重ねが大切です。ご家庭でもお子さんの机上が整っているか、学用品などは片付ける場所が決まっているかなどを、改めて確認ください。

屋外と屋内の気温差が激しい時期となりました。児童自身が衣服を調節して快適にすごせるように声かけをお願いします。脱ぎ着しやすい上着を1枚持たせるなどのご配慮をお願いします。